

令和2年度 第2回 川崎市小学校教育研究会 報告書

<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 auto; width: 80%;"> 図画工作科 </div>	会場 宮崎小学校 指導好評 川崎小学校 南原小学校 授業者 宮崎小学校 川中島小学校 司会者 小倉小学校 記録者 川中島小学校	校長 中臣 信丈 校長 渋谷 加寿子 本多 由季 大里 千恵 大貫 章光 眞砂野 礼
令和2年11月18日(水)		

「見つけた！すてきな名画～色・形などの感じを大切に～」

1 研究協議の概要

- アートカードの活用を活用して、カード同士を比較したり、体を使って真似をしたりするのも良いと思う。
- 6年間のつながりを意識して、低中高それぞれのアートカードを使っていきたい。
- しっかりと視点をもたせて鑑賞を行うことが大切だと感じた。

⑧ アートカードをどのように選んだのか。

→中学年用から24枚選んだ。

アートカードの中には、平面・立体作品が混在している。立体作品は、背景などに着目してしまう恐れがあり、作品自体を存分に味わって欲しいという願いから、平面作品のみを選択した。

⑧ アートカード以外にどのようなものを鑑賞したらよいか。

→画集や、指導書に入っている拡大図版などが有効である。

⑧ アートカードで行った鑑賞の視点を、友達作品鑑賞でどのように生かしたらいいのか。

→鑑賞の視点で得た経験をもとに友達作品鑑賞に活かす。



2. 指導講評 (川崎小学校 校長 中臣 信丈先生)

○学習指導要領のなかでは「生活や社会の中の形や色などと豊かにかかわる。」資質能力を身に付けさせることが大切であると述べられている。その中で、造形的な見方・考え方を大切に授業を行っていくことが大切である。

＜造形的な見方・考え方を大切に授業構想を行っていくために＞

- ・対象を形や色などの視点をもとに捉えるだけではなく、そこに自分の意味や価値を見出していく。
- ・今年度実施の学習指導要領をもとに、これまでとは異なる新たな視点をもって鑑賞の活動に臨まなければならない。
- ・視点に着目させようとして、そういった視点を意識しすぎてしまうと、視点のおしつけになってしまう恐れがある。
- ・子ども達が楽しく主体的・対話的に鑑賞し、深い学びができるように学習することが大切である。

＜本日の授業報告の中から＞

1. アートカードが有効であった。(低中高のねらいに合わせて鑑賞させる)
2. グループ鑑賞は、必ず個人で感想を述べられる時間を確保する。
→対話をしたことで見方・考え方が広がったり、深まったりしていることが大切である。
→主体的に活動を行うために、＜子ども達が好きな作品を選ぶ・作品同士の比較・同じ作者の作品を選ぶこと＞が作品をよく見ることに繋がる。
3. 鑑賞した経験が、社会や生活の形や色につながっていくことが大切であり、どこでつなげていくのかを意識して授業構想していくことが大切である。

「カラフル いろみず」

1 研究協議の概要

○三色のよさ・材料の豊富さ・場の設定・声掛けの工夫がよかった。

<評価について>

⑧ 造形遊びは見取りが難しいが、今回の活動で一番よかった姿は。

→誰が一番ではなくて、その子自身がどう気づいたかをみとり、価値づけをする声掛けをしていくことが大切である。

⑨ 以前同様の授業をしてごっこ遊びになってしまっていたことがある。それは図工としてよいのか。

→なしだと思ふ。ただの遊びではなく、学習であるということ意識して行う。

⑩ 今回の題材では、どんな場面でどのようにみとっていたのか。

→活動の変容を見ていった。カメラ(写真や動画)をもって、声掛けをして子供に聞いている。

⑪ 活動の中で役割分担にならないように気を付けて声掛けをしていたことは。

→見ていた中では、役割を分担している様子はなかった。自分自身が各々の活動を楽しんでいた。

<声掛けについて>

⑫ 「混ぜるといいね」を言うのか・言わないのか。(今回の授業者は言わない選択をした)

→他クラスで事前授業を行った時に、混ぜることに意識が向いてしまっていたことから、今回は言わない選択肢をとった。

⑬ どんな言葉をかけて、個人・グループどちらでスタートしたのか。

→カップをたくさん見せて、意欲を高められるようにした。色々な言葉を言いすぎないようにした。

○指導講評(南原小学校校長 渋谷 加寿子先生)

はじめは単純な色との出会いからはじまり、そこから、形などを意識していく。物(カップ)を集める・集まる活動の意味は大きく、初めは単品(一つ)でも集まったことで、色についての考え(自分の感覚や行為を通して)が深まり、形の工夫につながる。→感じる・考える・の連続

この活動では、色彩感覚を養うことができる授業であり、色との出会いである。この題材は今後の様々な題材につながっていく活動である。

評価については、写真や動画の活用をしていく。短いワークシート・聞き取りなど多様な評価材を生かして評価する。

<造形的な見方・考え方を大切にしたい授業構想を行っていくためのポイント>

1 色との出会い(色を楽しむ)

- ・形式(～をします。など)を伝えるのは造形遊びではない。
- ・色水との出会いの時間の確保を十分にすることがよかった。
- ・造形遊びは作品作りではない。
- ・色が際立つ晴れた日を選択した。

→日の光に照らされた美しさで子供たちは心を奪われていく。

→子供のやってみようという思いを引き出す。これが授業のカギである。

- ・材料を限った中でも、今日何をやるかの見通しをしっかりとめさせることが資質・能力を育成するうえでも大切である。

2. 場の設定

- ・屋外につながる広い場所

→手や体全体を十分に動かすことができる。

→材料を存分に活用できる。

